

今後の検討の進め方

平成 16 年 4 月 6 日

1. 確認すべき事項

( 1 ) 生殖補助医療の及び生殖補助医療研究の実態

体外受精プロセスの現状

ヒト受精胚を用いる研究

ヒト受精胚の作成を伴う研究

未受精卵採取の実態

未受精卵、受精胚の凍結保存技術の現状

( 2 ) 研究目的のヒト受精胚・人クローン胚の作成・利用

難病治療、再生医療のための研究の社会的意義

難病や重篤な先天性疾患に関する研究の具体例

体性幹細胞を用いた再生医療の見通し

( 3 ) 未受精卵の採取

採取の際の母体への浸襲性

( 研究目的の作成を容認する場合に ) 實際上利用が想定し得る未受精卵の状況

2. 今後の検討事項

( 1 ) ヒト受精胚・人クローン胚の作成・利用の再検討

現状確認の結果を踏まえた再検討

旧来の検討結果との関係

( 2 ) ヒト胚の発生過程と倫理面との関係

中間報告書では、「検討範囲」の問題として処理。

原始線条形成と受精胚の取扱い期間との関係について明確にする必要がないか。

( 3 ) 規制・制度の在り方

今後の議論を踏まえて検討すべき課題。

検討の前提として、生命倫理と規制の関係について見解を整理する必要。

規制・制度の具体的立案、運用も視野に入れて検討する必要。

( 4 ) その他

哲学、倫理学、宗教学に関する記述の取扱い

全体の取りまとめ方等